

乳幼児がかかりやすい風邪の一種「RSウイルス感染症」が流行している。中国地方では広島、山口、島根、鳥取の4県で、流行の目安を上回る患者が発生中。1歳未満児が初めてかかると重症化して気管支炎や肺炎を起こすこともある。舟入病院(広島市中区)副院長で小児科部長の兵藤純夫医師に、症状の特徴や対処法を聞いた。



「1歳未満児は重症化しやすいため、症状が出たら早めに受診して」と呼び掛ける兵藤医師

RSウイルスをやっつける治療薬はなく、医療機関を受診すると、鼻水やせきの症状を和らげる飲み薬などの対症療法で回復を待つことになる。乳児の場合は、鼻水の吸引や酸素の吸入で呼吸を手助けすることもあ

RSウイルス流行

RSウイルスは毎年、主に冬場に流行する。「感染力が強いウイルス。2歳までにほぼ100%の子に感染する。鼻水やせき、ほのかかり、乳幼児期は繰り返して感染しやすいです」。大人や年長児の場合、ほとんどは微熱を伴う鼻風邪吸になる。「3カ月未

程度で終わるとい

満でかかると細気管支炎や肺炎を起こすケースも多い」と指摘。呼吸が苦しいうつ母乳やミルクなどを飲めない▽眠れないなどの症状があれば重症化の恐れが強い

舟入病院(広島市)兵藤・小児科部長に聞く

乳幼児早めの受診を

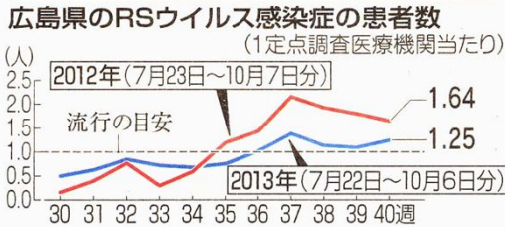
注意が必要な症状

たんがからむ 苦しそうなせき
ぜえぜえという 浅い呼吸
母乳やミルク、水を飲まない

予防策

マスク うがい 手洗い

グラフィック・本井克典



感染予防のためのワクチンはないが、重症化を防ぐための抗体製剤はある。遺伝子組み換え技術を用いた「パリスマブ」という製剤だ。投与の対象者は、35週までの早産やダウン症、生まれつき心臓に疾患があるなど「特に重症化しやすい」とされる子どもに限られている。投与する場合は流行期に毎月、注射をしなければなら

重症化で気管支炎や肺炎も 呼吸・せきに注意を

超えた。

予防策は手洗いやうがい、マスク着用を徹底することだ。兵藤医師は「乳児はほとんどが家族から感染している。きょうだいがいる場合、上の子が保育所などで風邪をもらってきたら、赤ちゃんと接触させないように気をつけて」と助言している。

安心・安全